第３章　介護労働者の就業意識の検討：転職行動に基づくキャリアタイプ間での比較

坂爪 洋美（法政大学 キャリアデザイン学部 教授）

１．はじめに

介護事業に従事する介護労働者には、新卒ではなく転職をきっかけとして介護に携わるものが多い。転職のタイプには、介護業界の中で転職をする者もいれば、介護業界以外から介護業界に転職をする者、さらには介護業界を一旦離れた後に、介護業界に戻ってくる者もいるだろう。本稿では、介護労働者を転職行動に基に３つのキャリアタイプに分類した上で、タイプ間での属性ならびに就業意識の検討を行う。就業意識としては、介護の仕事ならびに今の就業先を選んだ理由、今後のキャリアイメージを取り上げる。

２．検討対象のタイプ分けの方法と属性

本稿では、令和６年度の労働者調査に回答した者のうち、今の職場の前に前職があり（9240 名）、かつ現在の職種が、訪問介護員（2626 名）もしくは介護職員（6614 名）に該当する者を分析対象とした。さらに直前の仕事「無回答」（1704 名）を除いた 7536 名が分析対象とした（図表１）。分析対象はこれまでの転職行動に基づき３タイプに分類された。

３つのキャリアパスは以下の通りである。まず、「介護–介護」は、前職での仕事経験が「介護関係の仕事（訪問系）」「介護関係の仕事（通所系）」「介護関係の仕事（施設系）」「介護関係の仕事（その他）」「介護以外の福祉関係の仕事」「医療関係の仕事」のいずれかに該当する者である。

次に「介護–以外–介護」は、前職が介護・福祉・医療関係以外の仕事であり、かつこれまでの勤務先で経験した仕事内容として、「介護関係の仕事（訪問系）」「介護関係の仕事（通所系）」「介護関係の仕事（施設系）」「介護関係の仕事（その他）」「介護以外の福祉関係の仕事」「医療関係の仕事」のいずれか１つ以上に該当する者である。

最後に「以外–介護」は 前職が介護・福祉・医療関係以外の仕事で、かつこれまでの勤務先で経験した仕事内容が「介護・福祉・医療関係以外の仕事」に該当する者である。

図表１から、訪問介護員（52.9%）・介護職員（51.8%）といずれも「介護–介護」での転職が 50%超であること、「介護–以外–介護」は、訪問介護員（9.4%）・介護職員（8.6%）といずれも 10%以下と少数であった。

図表１　分析対象

		キャリアパス			合計
		介護ー介護	介護ー以外ー介護	以外ー介護	
訪問介護員	人数	1112	197	793	2102
	%	52.9%	9.4%	37.7%	100.0%
介護職員	人数	2817	465	2152	5434
	%	51.8%	8.6%	39.6%	100.0%
合計	人数	3929	662	2945	7536
	%	52.1%	8.8%	39.1%	100.0%

タイプ別に特徴を見ていこう。総じて女性の介護労働者の割合が高いが、タイプ別に見ていくと、訪問介護員（18.2%）・介護職員（30.4%）とも、「以外–介護」で、男性の比率が他の２つのタイプより、最大で 5～10 ポイント高かった（図表２）。

図表２　タイプ別の性別割合

		男	女
訪問介護員	介護ー介護	13.2%	86.8%
	介護ー以外ー介護	14.4%	85.6%
	以外ー介護	18.2%	81.8%
介護職員	介護ー介護	22.4%	77.6%
	介護ー以外ー介護	20.4%	79.6%
	以外ー介護	30.4%	69.6%

年齢は訪問介護員・介護職員ともタイプによる年齢の違いはなかった。介護関係の仕事の経験年数と今の法人での勤続年数についてみていこう。訪問介護員では、介護関係の仕事の経験年数は 11.5 年～13.8 年で統計的に有意な差異は認められなかったものの、今の法人での勤続年数は、「以外–介護」が 9.7 年と最も長く、「介護–介護」が 6.1 年と最も短かった。

一方、介護職員では、介護関係の仕事の経験年数は「介護–介護」が 14.3 年と最も長く、「以外–介護」が 10.6 年と最も短かった。逆に、今の法人での勤続年数は、「以外–介護」が 9.2 年と最も長く、「介護–介護」が 6.5 年と最も短かった。介護業界の中で転職をしている介護労働者の１法人当たりの勤続年数は短い可能性がある。なお、「以外–介護」は、定義上介護関係の仕事の経験年数と今の法人での勤続年数が同じ値になるはずだが、訪問介護員で 1.8 年、介護職員で 1.4 年のずれがあったことに注意が必要である。

図表３　タイプ別年齢ならびに経験・勤続年数

		年齢	「介護関係の仕事」の経験年数	今働いている法人での勤続年数
訪問介護員	介護ー介護	50.6	13.8	6.1
	介護ー以外ー介護	49.7	12.1	7.3
	以外ー介護	52.9	11.5	9.7
介護職員	介護ー介護	48.7	14.3	6.5
	介護ー以外ー介護	47.9	12.5	7.5
	以外ー介護	49.4	10.6	9.2

直前の仕事での就業形態については訪問介護員（65.5%）・介護職員（70.6%）とも「介護–介護」で無期雇用職員である割合が他のタイプよりも多かった。しかしながら、今の法人での雇用形態が無期雇用職員である割合は、訪問介護員で 70.4%～72.9%、介護職員で 72.3%～75.8%で、いずれも有意な差異は認められなかった。訪問介護員・介護職員とも全てのタイプで、無期雇用職員である割合が直前の仕事の就業形態よりも今の法人での雇用形態で高かった。

特に「介護–以外–介護」「以外–介護」では、今の法人での雇用をきっかけに有期雇用から無期雇用へと就業形態が転換した者の割合が高かった。最もその割合が高かったのは、訪問介護員の「介護–以外–介護」で、22.4 ポイント高まっていた。

図表４　タイプ別直近の仕事の就業形態

		直前の仕事の就業形態			今の法人での雇用形態	
		無期雇用職員	有期雇用職員	その他	無期雇用職員	有期雇用職員
訪問介護員	介護ー介護	65.5%	28.7%	5.7%	71.4%	28.6%
	介護ー以外ー介護	50.5%	30.4%	19.1%	72.9%	27.1%
	以外ー介護	57.8%	26.0%	16.2%	70.4%	29.6%
介護職員	介護ー介護	70.6%	25.0%	4.4%	75.8%	24.2%
	介護ー以外ー介護	55.2%	30.8%	14.1%	72.3%	27.7%
	以外ー介護	61.5%	27.8%	10.7%	73.2%	26.8%

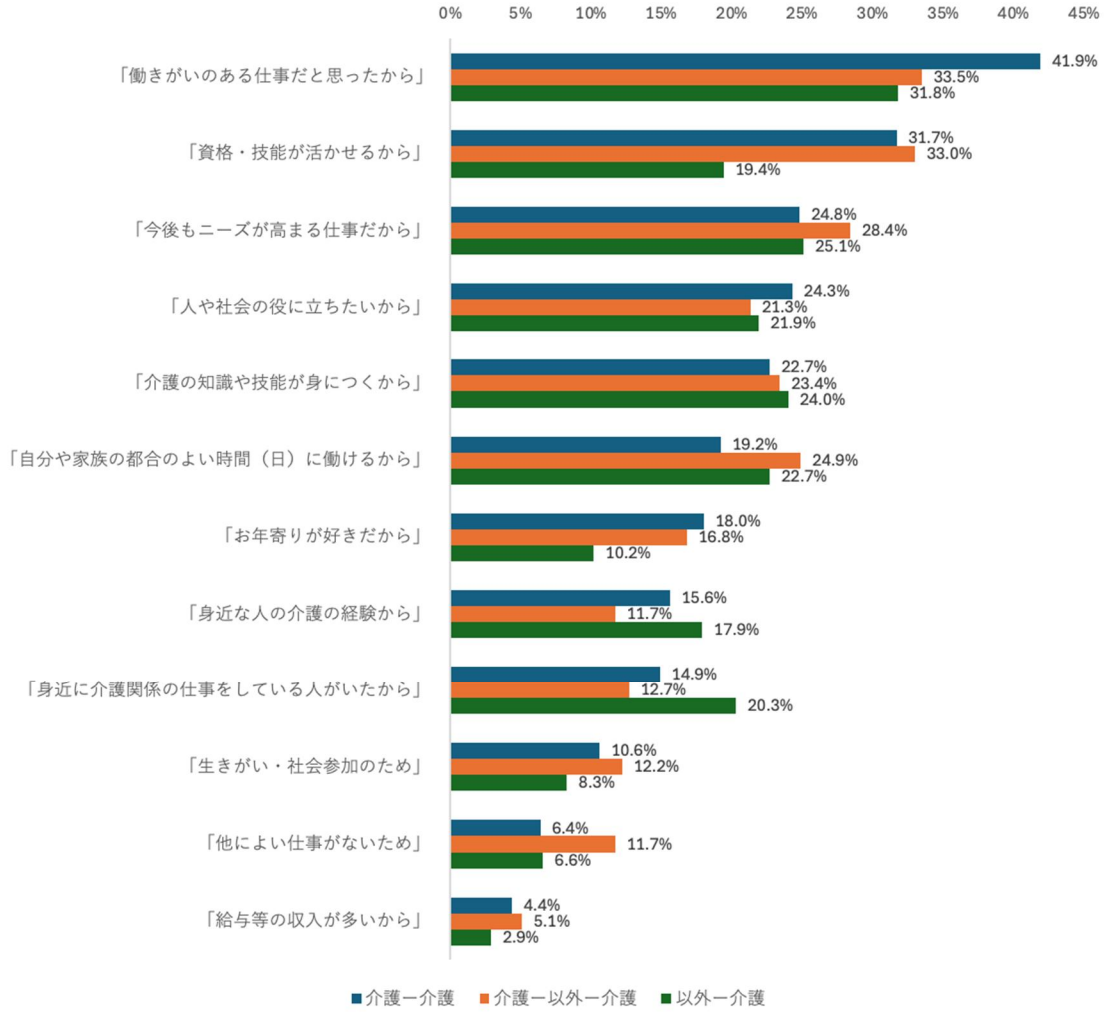
３．就業意識①　今の仕事を選んだ理由

今の仕事（訪問介護員・介護職員）を選んだ理由から見ていこう。なお図表 5~8 は、「介護–介護」の該当者が多かった項目から降順で項目を並べ替えた。訪問介護員では、３タイプとも理由として「働きがいのある仕事だと思ったから」をあげる者の割合が最も多かった。2 番目以降はタイプによって異なった。「介護–介護」「介護–以外–介護」では、「資格・技能を活かせるから」「今後もニーズが高まる仕事だから」が続いた。一

方、「以外−介護」では、「今後もニーズが高まる仕事だから」「介護の知識・技能が身につくから」が続いた。

タイプごとの特徴を確認する。「介護−介護」では、介護の仕事にやりがいを感じつつ、これまで培った資格や技能を活かすべく介護の仕事を選ぶ特徴がある。「介護−以外−介護」も同様の傾向があり、仕事の将来性や過去の経験を活かしつつ、同時に都合のよい時間帯に働けるといった就業上のニーズも加味して、介護の仕事を選ぶ特徴がある。同時に、「他に良い仕事がないため」が他のタイプより多く、様々な仕事経験を通じて相対的に介護が良いという結論になった可能性がある。「以外−介護」では、将来的なニーズの高まりを背景に、身近な人の介護経験から、技能や知識を求めて介護の仕事を選ぶ傾向がある。

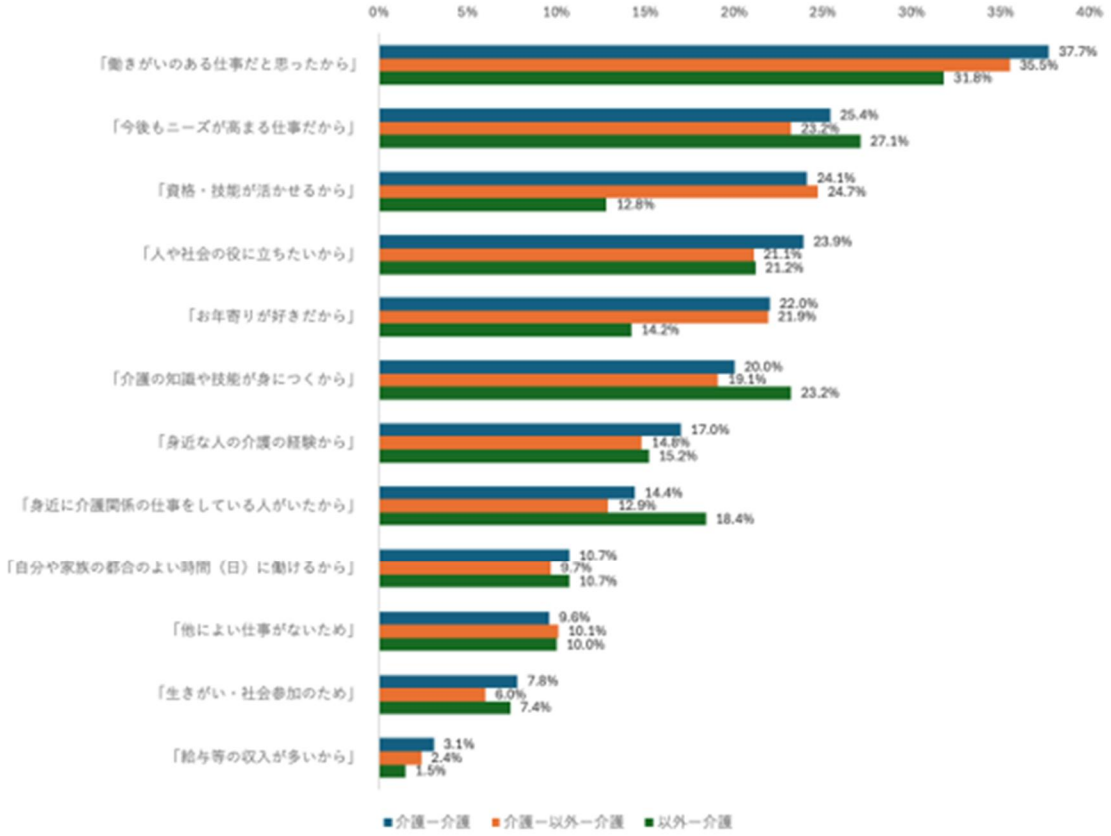
図表５　今の仕事を選んだ理由（訪問介護員）



介護職員も同様に、３タイプとも理由として「働きがいのある仕事だと思ったから」をあ

げる者の割合が最も多かった。2 番目・3 番目は順番こそ違うが、「介護–介護」「介護–以外–介護」では、「今後もニーズが高まる仕事だから」「資格・技能を活かせるから」「今後もニーズが高まる仕事だから」が続いた。一方、「以外–介護」では、「今後もニーズが高まる仕事だから」「介護の知識・技能が身につくから」が続いた。訪問介護員・介護職員とも、「以外–介護」では介護の知識・技能の獲得に意義や魅力を感じて介護の仕事を選択する傾向がある。3 タイプごとの特徴も訪問介護員と類似していた。

図表 6　今の仕事を選んだ理由（介護職員）



４．就業意識②　今の事業所に就職した理由

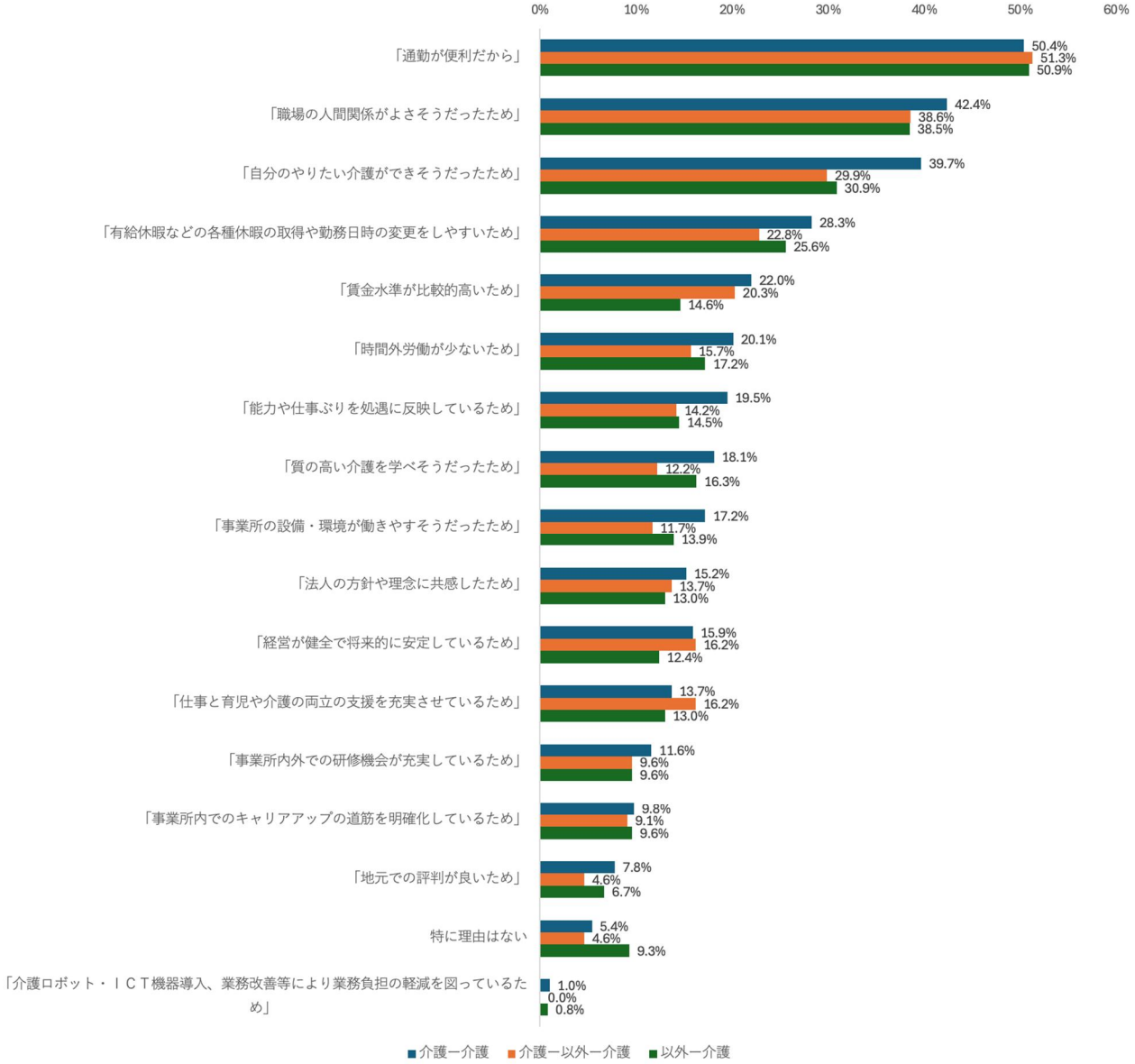
訪問介護員が今の事業所を選んだ理由としては、「通勤が便利だから」が最も多く、「職場の人間関係がよさそうだったため」「自分のやりたい介護ができそうだったため」が続いた。上位に来る項目はタイプ間で相違はなく、訪問介護員として働こうと考える人々にとって共通して大事な項目だと言える。

一方で、タイプ間での違いも認められた。具体的には、「介護–介護」では、「自分のやりたい介護ができそうだったため」（39.7%）、「賃金水準が高いため」（22.0%）、

「能力や仕事ぶりを処遇に反映しているため」（19.5%）、「事業所の設備・環境が働きやすそうだったため」（17.2%）が、他のタイプより高かった。「介護–介護」は、他のタイプより、自分の仕事観との一致や処遇制度を重視していると言える。

「以外–介護」では、「自分のやりたい介護ができそうだったため」（30.9%）、「賃金水準が高いため」（14.6%）、「能力や仕事ぶりを処遇に反映しているため」（14.5%）と低く、「特に理由はない」（9.3%）と多かった。「介護–以外–介護」には顕著な傾向は認められなかった。

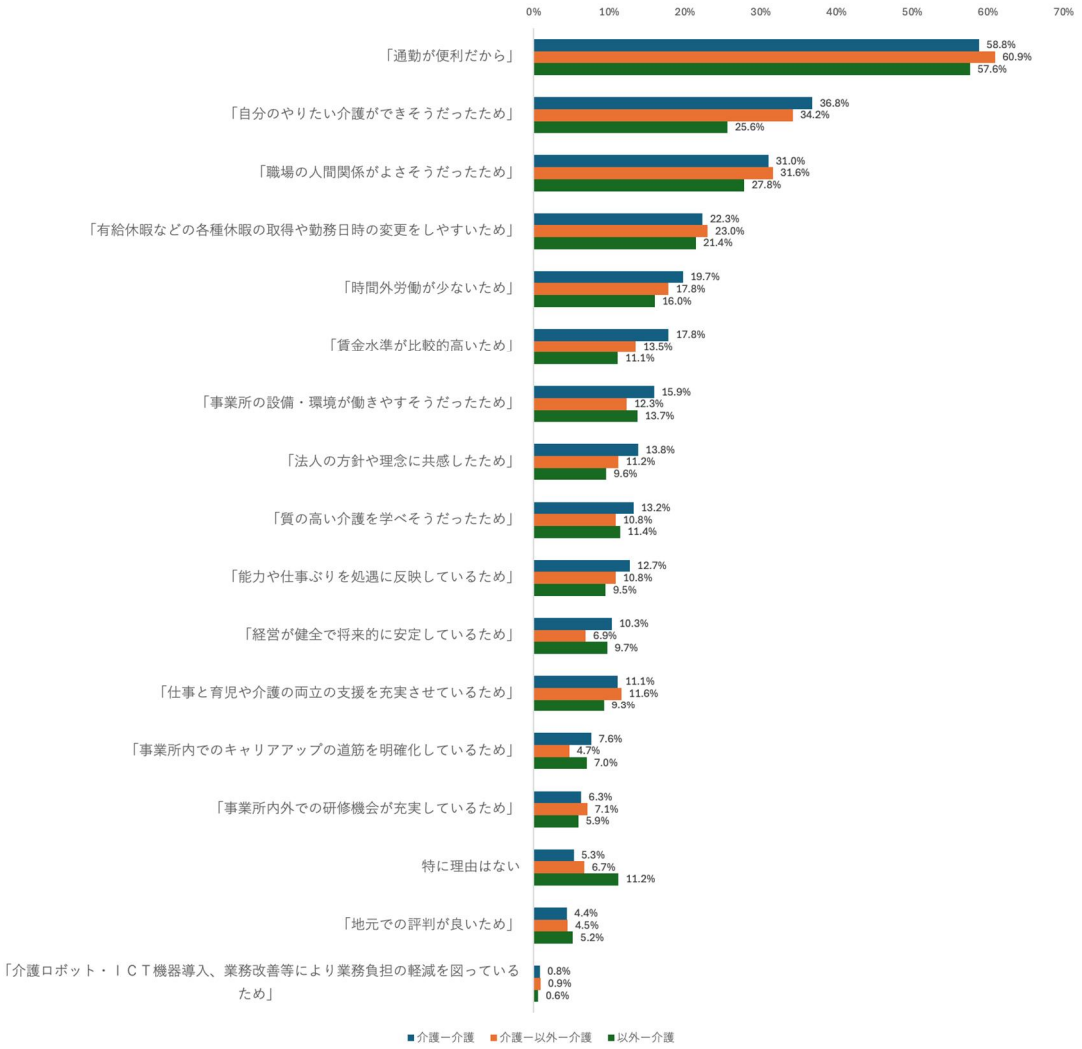
図表７　今の事業所を選んだ理由（訪問介護員）



介護職員でも、訪問介護員同様、今の事業所を選んだ理由として「通勤が便利だから」が最も多く、「自分のやりたい介護ができそうだったため」「職場の人間関係がよさそう

だったため」が続いた。一方で、タイプ間での違いも認められた。具体的には、「介護–介護」では、「自分のやりたい介護ができそうだったため」（36.8%）、「賃金水準が高いため」（17.8%）、「事業所の設備・環境が働きやすそうだったため」（15.9%）、「能力や仕事ぶりを処遇に反映しているため」（12.7%）が、他のタイプより高かった。これらは訪問介護員と同様の傾向である。加えて、「職場の人間関係がよさそうだったため」（31.0%）、「時間外労働が少ないため」（19.7%）、「法人の方針や理念に共感したため」（13.8%）も高かった。見方を変えると「以外–介護」ではこれらの項目を挙げる人が少なかった。「介護–介護」は、これまでの介護事業所での勤務経験を通じて、他のタイプより、自分の仕事観との一致や処遇制度・働きやすさを重視していると言える。「以外–介護」は、訪問介護員同様、「特にない」が 11.2%と高いことが特徴であった。「介護–以外–介護」には顕著な傾向は認められなかった。

図表８　今の事業所を選んだ理由（介護職員）



５．今後のキャリアイメージ

訪問介護員の仕事に関する今後のキャリアイメージとしては、全てのタイプで「今の仕事（職種）を続けたい」と回答する者が最も多かった。「介護−介護」では、「今の仕事（職種）ではない、介護関係の仕事（職種）に就きたい」（5.7%）「今の仕事（職種）ではない、福祉・医療関係の仕事（職種）に就きたい」（2.8%）と他のタイプより高かった。これまでの介護経験を踏まえ、より自分にとって適合的な働き方を継続的に模索する層が存在すると考えられる。

逆に「以外−介護」では、「今の仕事（職種）ではない、介護関係の仕事（職種）に就きたい」（2.0%）「今の仕事（職種）ではない、福祉・医療関係の仕事（職種）に就きたい」（1.1%）と回答する者の割合が低く、介護関係の別の仕事への転換を考えていないことが特徴である。

また、「介護−以外−介護」は他のタイプと比べて「今の仕事（職種）を続けたい」（58.9%）が低く、「わからない」（27.9%）と高かった。トータルでの介護の仕事経験ならびに今の法人での勤続年数双方とも他のタイプと比べて差はないにも関わらず、今後のキャリアが十分にイメージができていないことが特徴である。

介護職員も同様の傾向があり、全てのタイプで「今の仕事（職種）を続けたい」と回答する者が最も多かったが、訪問介護員と比較すると、「今の仕事（職種）を続けたい」と回答する者の割合が、「介護−介護」で 9.1 ポイント、「介護−以外−介護」で 0.4 ポイント、「以外−介護」8.8 ポイント低かった。「介護−介護」では、「今の仕事（職種）ではない、介護関係の仕事（職種）に就きたい」（6.7%）「今の仕事（職種）ではない、福祉・医療関係の仕事（職種）に就きたい」（3.1%）と他のタイプより高かった。「介護−以外−介護」は「介護−介護」の傾向と類似していた。一方、「以外−介護」では、「介護・福祉・医療関係以外の仕事（職種）に就きたい」（8.0%）「わからない」（25.8%）と他のタイプより高く、今の仕事を続けたいと考えていない層では、介護以外の仕事を求めるもしくは今後のイメージがわいていない者が相対的に多かった。タイプ間の特徴を比較すると、「介護−介護」「介護−以外−介護」では、今の仕事を続けない場合でも介護関係で将来の仕事を模索する傾向があるが、「以外−介護」では介護以外の仕事を模索する傾向がある。

図表９　今後のキャリアイメージ（仕事）

		今の仕事(職種)を続けたい	今の仕事(職種)ではない、介護関係の仕事(職種)に就きたい	今の仕事(職種)ではない、福祉・医療関係の仕事(職種)に就きたい	介護・福祉・医療関係以外の仕事(職種)に就きたい	わからない	働きたくない
訪問介護員	介護ー介護	66.9%	5.7%	2.8%	5.2%	17.0%	2.5%
	介護ー以外ー介護	58.9%	4.2%	0.5%	5.8%	27.9%	2.6%
	以外ー介護	66.9%	2.0%	1.1%	5.7%	20.9%	3.4%
介護職員	介護ー介護	57.8%	6.7%	3.1%	6.3%	23.3%	2.9%
	介護ー以外ー介護	58.5%	5.6%	3.4%	6.5%	22.1%	3.8%
	以外ー介護	58.1%	3.9%	1.3%	8.0%	25.8%	2.9%

次に、今の法人での就業継続についてみていこう。訪問介護員・介護職員とも「今の事業所で働き続けたい」と回答する者が最も多かった。タイプ間の比較からは、訪問介護員では「介護–介護」で「別の法人や企業などに転職したい」が 9.4%と他のタイプより高く、逆に「以外–介護」で 5.3%と低かった。「介護–以外–介護」では仕事同様、「わからない」と回答する者が 33.9%と他のタイプより多かった。一方、介護職員ではタイプ間で違いは認められなかった。

図表 10　今後のキャリアイメージ（今の法人での就業継続）

		今の事業所で働き続けたい	今の法人内の別の事業所に転勤したい	別の法人や企業などに転職したい	わからない
訪問介護員	介護ー介護	65.2%	1.5%	9.4%	23.9%
	介護ー以外ー介護	56.7%	1.1%	8.3%	33.9%
	以外ー介護	68.1%	1.4%	5.3%	25.2%
介護職員	介護ー介護	52.5%	2.1%	13.0%	32.5%
	介護ー以外ー介護	52.1%	3.1%	12.6%	32.1%
	以外ー介護	55.4%	1.7%	10.8%	32.1%

６．おわりに

以上の結果をふまえると訪問介護員・介護職員ともに、前職も現職も介護である「介護－介護」群は、介護職としての通算経験年数が最も長い一方、現在の職場での勤続は相対的に短い。雇用形態は無期雇用の比率が高く、仕事選択理由は「やりがい」や「これまで培った資格・技能の活用」が中心で、職場選択では自分の仕事観との一致や処遇制度を重視する。将来像としては、現在の仕事・職場での継続希望が最も高いが、他の介護関連職や事業所への転職も視野に入れている。

前職が介護以外で一度介護を離れ再び介護に戻った「介護－以外－介護」群は、経験・勤続年数ともに中間的な水準である。仕事選択理由は「やりがい」「技能活用」に加え、「他に良い仕事がなかった」「都合の良い日に働ける」といった利便性を上げる割合が高い。特に訪問介護員で、将来像はやや不確定で、継続希望はあるものの他群より低く、

「わからない」とする回答が多い。

介護以外の仕事から新たに介護に入職した「以外－介護」群は、介護の通算経験は最も短いが、現在の職場での勤続は最も長い。近年の介護ニーズの高まりや、身近な介護経験を契機として技能・知識の獲得を目指して介護を選ぶ傾向がみられ、現在の職場を選んだ理由がやや不透明である。将来像は概して現職継続志向が強い。ただし、訪問介護員では現職継続希望が高く、介護「以外」への転換意向は低いのに対し、介護職員では継続希望は高いものの介護以外への転換を考える割合が高い。

図表 11 結果概要

職種	キャリアタイプ	属性	介護経験	雇用形態		今の仕事・職場の選択理由		今後のキャリアイメージ
				前職	現在	仕事	職場	
訪問介護員	介護-介護	平均年齢に違いはないが、「以外―介護」で男性の割合が高い	トータルでの介護の仕事経験は最も長いが、今の職場での勤務年数は最も短い	無期雇用の割合が高い	全体として、無期雇用の比率が高まる。タイプ間での違いなし	介護の仕事にやりがいを感じつつ、これまで培った資格や技能を活かすべく介護の仕事を選ぶ	自分の仕事観との一致や処遇制度を重視	今の仕事・職場での就業継続を希望する割合が最も高いが、他の介護関係の仕事や事業所への転換（転職）を視野に入れている
	介護―以外―介護		「介護―介護」と「以外―介護の中間」	有期雇用等の割合が高い		介護の仕事にやりがいを感じつつ、これまで培った資格や技能を活かすべく介護の仕事を選ぶ。「他に良い仕事がなかったため」「都合の良い日に働けるから」を挙げる割合が高い。		今の仕事・職場での就業継続を希望する割合が最も高いものの、他のタイプよりは低く、かつ「わからない」と回答する者の割合が高い
	以外―介護		トータルでの介護の仕事経験は最も短いが、今の職場での勤務年数は最も長い			なニーズの高まりを背景に、身近な人の介護経験から、技能や知識を求めて介護の仕事を選ぶ	特になしが一定数いる	今の仕事・職場での就業継続を希望する割合が最も高く、かつ介護以外の仕事への転換を考える割合が低い。
介護職員	介護-介護		トータルでの介護の仕事経験は最も長いが、今の職場での勤務年数は最も短い	無期雇用の割合が高い		介護の仕事にやりがいを感じつつ、これまで培った資格や技能を活かすべく介護の仕事を選ぶ	自分の仕事観との一致や処遇制度を重視	今の仕事・職場での就業継続を希望する割合が最も高いが、他の介護関係の仕事や事業所への転換（転職）を視野に入れている
	介護―以外―介護		「介護―介護」と「以外―介護の中間」	有期雇用等の割合が高い				
	以外―介護		トータルでの介護の仕事経験は最も短いが、今の職場での勤務年数は最も長い			なニーズの高まりを背景に、身近な人の介護経験から、技能や知識を求めて介護の仕事を選ぶ	特になしが一定数いる	今の仕事・職場での就業継続を希望する割合が最も高いが、介護以外の仕事への転換を考えている割合が高い